



——第5章 市民・住民参加による地域づくり——

組織づくりと運営方法

久知河内の自然環境保全活動や交流活動は、どのようなしくみで成り立っているのでしょうか。久知河内の人々は、久知川という自然環境を大切にして、その保全に取り組んできました。また、それを利用した地域活性化活動を展開しています。これらを支える組織づくりや運営方法について考えてみましょう。

活動をリードする「ホタルの会」

久知河内の活動の中心的役割を担っているのが「ホタルの会」です。

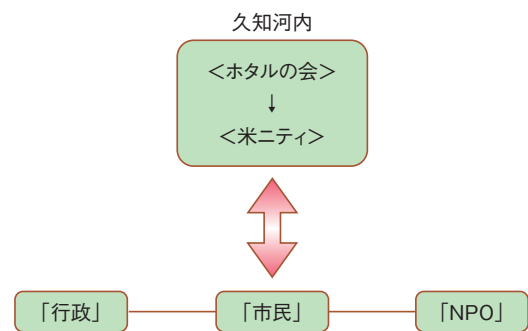
「ホタルの会」の会員数は2007（平成19）年3月現在で49人。集落の全住民数85人の58%にあたります。活動は一部の人だけのものではなく集落全体で取り組んでいることがわかります。

運営の分担化

「ホタルの会」の運営にあたっては、役員を中心にしながらみんなが役割を分担し、個人の持ち味を生かせるようにしています。

みんなが役割を分担して運営することで、一部の人に負担をかけず仕事が分散されます。

また、運営にあたっての特徴は、外部協力団体の担当窓口が設けられていることです。たとえば「トキの野生復帰連絡協議会」（2010年に解散）には、会から代表が送られており、外部団体や行政との情報交換を行います。運営の指針となる情報を得たり、活動資金を得る役割を専門に担っています。



久知河内集落の地域作りの組織概念図

こまめな情報発信

「ホタルの会」を中心とする久知河内の環境保全活動や生産活動の取り組みは、複数のメディア・団体・機関を通して広く情報発信されています。活動やその成果が発信されることで知名度が高まり、公的な機関誌で紹介されたり、島内のホテルが佐渡観光のPRに盛り込んでくれるようになりました。

補助金の活用

さまざまな活動には資金が必要です。自然環境の保全には、鎌・鍬などの道具や草刈り機、耕運機などの機械も必要になります。

それらの費用を自己負担することは、高齢化・過疎化する地域の住民にとって、ときに過重な負担となり現実的には難しいといえます。このために、行政や民間の補助事業に申請をして活動資金を得る必要があります。

広報担当の会員がこれらの業務を担当して、活動が無理なく持続的に行えるようにしています。

「久知河内地域ビジョンづくり」

久知河内の活動を目指す方向に進める方針となったのが、「地域ビジョン」です。「地域ビジョン」とは、この地域をどんなところになりたいか、この地域でどんな生活がしたいか、そんな思いをまとめたものです。久知河内では「ホタルの会」が主となり「地域ビジョン」が作られました。「ホタルが舞い、サケの帰る久知川に」を地域ビジョンに、外部のアドバイザー・住民・新潟県職員・旧両津市職員などの人が一体となって作成しました。

久知河内の取り組みが大きな成果を上げることができたのは、そこに暮らす人たちが、地域の将来について「こうしたい」という強い思いがあったからです。この成果を次の世代にどう受け継いでいくのか、久知河内のこれからの課題です。

久知河内では「地域ビジョン」づくりのため、2002(平成14)年度に7回にわたりワークショップが開かれた。住民だけでなく、県職員・アドバイザーも参加しておこなわれた。そこでは、川・ホタル・水田・大学生との交流・山・地場産業・少子化など、さまざまなことが話し合われ、それにより住民の地域に対する関心を高めることができた。